

借入金と利息のはなし ～元利均等と元金均等～

平成 30 年 9 月作成



会社の経営や人生において、様々な場面でお金が必要になることがあります。その時に、すでに預貯金等でお金を準備できていればいいのですが、必ずしもそうとばかりは行かないのが現実です。たとえば会社の経営において、必要な機械等の設備投資をする場合、個人であれば、車や家を購入する場合等、多くの人借入金を利用することになると思います。しかし、借入金について「借ったお金は返さなければならない」、「お金を借りると利息を支払わなければならない」ということは知っていても、具体的にどのような仕組みになっているのかを理解している人は少ないのではないのでしょうか。そこで、今回と次回は、借入金の返済方法と、利息の計算方法についてお話したいと思います。

借入金の返済方法には大きく「元金均等払い」と「元利均等払い」の二つがあります。そして、利息の計算方法には「固定金利」と「変動金利」の二つがあります。

今月は、まずは返済方法についてのお話です。

「元金均等」とは、毎回返済する借入金の元金と同額という方法です。この場合、借入金残高の多い返済初期は利息の額も高額になるため、毎回の返済額（元金+利息）が多くなり、返済回数が進むほど毎回の返済額が少なくなります。

「元利均等」とは毎回の返済額（元金+利息）が同額になる返済方法です。この場合、借入金の残高が多い返済初期は利息の額が高額になりますが、毎回の返済額（元金+利息）は同額のため、その分元金の返済額が少ないこととなります。返済回数が進むほど利息は少なくなり、一方元金の返済額が増えることとなります。

また、これらの返済方法を比較した場合の特徴は表のとおりです。なお、簡略化のため借入金額 100 万円、年一回払い、利率 5% で計算しています。

元利均等			
返済回数	元金	利息	返済額
1	¥180,975	¥50,000	¥230,975
2	¥190,024	¥40,951	¥230,975
3	¥199,525	¥31,450	¥230,975
4	¥209,501	¥21,474	¥230,975
5	¥219,976	¥10,999	¥230,975
合計	¥1,000,000	¥154,874	¥1,154,874

元金均等			
返済回数	元金	利息	返済額
1	¥200,000	¥50,000	¥250,000
2	¥200,000	¥40,000	¥240,000
3	¥200,000	¥30,000	¥230,000
4	¥200,000	¥20,000	¥220,000
5	¥200,000	¥10,000	¥210,000
合計	¥1,000,000	¥150,000	¥1,150,000

元利均等払いに比べ、元金均等払いのほうが①最初の返済額が多いが返済回数が進むと徐々に少なくなる、②利息の返済総額は元金均等のほうが少なくなる、という特徴があります。また、借入期間が長くなればなるほど、これらの特徴が顕著になり、元利均等払いの場合の利息の支払い総額が元金均等払いの場合の利息の支払い総額より多くなります。住宅ローンにおいては元金均等払いを選択できないことも多いようですが、初期の返済額が無理なく支払えるのであれば、元金均等払いを選択するほうが、将来の資金繰りが良くなります。一方で、最近では事業用資金であっても元利均等払いを選択する事ができるケースも多いようです。元利均等払いのほうが、毎回の返済額が同額になるため、初期の支払総額の負担を軽減し、長期的な資金計画を立てやすいというメリットもあるため、これらの特徴をよく理解のうえ選択することが重要です。